

男性と育児を考える

北区子ども家庭部子育て支援課 育ち愛ほっと館専門相談員 永田 陽子

はじめに

育児困難、虐待や学級崩壊など子どもが安心して自分育てをする環境が歪んできており、子どもの健康な育ちのために社会として「男性の育児」に真剣に取り組まねばならない時期に来ている。心理臨床の現場では、父親の精神的不在や不適切な役割遂行と子どもの不適応行動との関連から、父親役割の重要性は以前から捉えられていた。そして、子ども・子育て応援プラン（2004年）により、「男性の育児」が社会的課題として推進されつつある。

1. 男性の育児参加が求められる理由

子どもの健康な育ちのため

子どもへの父親の影響について1970年代から多くの研究がなされた。主に、子どもの認知、情緒、社会性の発達への影響が報告されている。父親のかかわりが多いと、6ヶ月の乳児の高い認知発達が示され、1歳ではおもちゃの問題解決力が高まる。学童では、課題達成力が発揮しやすく、学校生活を楽しみ問題行動が少ない。また、情緒や社会性の面では、子どもの基本的安定感が育ち探索行動が積極的で、ストレスや欲求不満に対するトレランスが高く、若者の自己受容と社会適応力尺度で高い得点を示したという。以上のように、乳児期から青年期までの父親のかかわりは、子どもの発達に重要な関連がみられる。また、父親以外の地域の男性とかわかることは、子どもの年齢が高いほど必要である。

パートナーシップの構築

荷物是一人より二人で持った方が軽くなるように、夫が家事育児に関心を示し分担すれば、妻（母親）の負担が心身両面で軽減される。妻は孤独感から解放され、育児の不安や不満、ストレスが低下し、安定した母性性を発揮しやすいのは言うまでもない。良好な愛情関係を持つ夫婦は、家庭の雰囲気

暖かく10歳児の子どもを抑うつ傾向が低減する（菅原ますみ）。筆者の担当する相談では、夫婦のコミュニケーションのあり方と子どもや家族の安定との関連を痛感させられる。特に夫婦の課題を先送りすると、思春期の子どもまで巻き込み、家族間に怒りを伴う大きな問題として表出される。父親が育児に参加し、子どもの幼少期から夫婦のパートナーシップを構築し、家族が安心して過ごせる場が求められる。

男性本人のため

人を育てる体験は他者への思いやりや共感性などを育み、人間としての暖かさや豊かさをはぐくむ。父親が家族に関心を払い、育児をし家族との結びつきを形成すれば、家庭内に居場所ができる。それは、子どもを育てる社会的責任を果たす父親自身の親としての自尊感情となり、自己肯定感が高まる。自尊感情の高い親の元で育つと、子どもも高い自己肯定感もちやすい。家族との安定した関係は父親の労働意欲を高め、長期的には職場に利益をもたらす。

社会の変革：男女共同参画社会

現代の子どもを巻き込む事件、未成年の子どもが起こす事件の多さや異常さは、行き過ぎた利潤追求社会の価値観への警告である。近代化を進めるだけの価値がもたらした産業開発の結果といえる。人が安全で安心して暮らせることと結びつけた労働の内容や質が問われている。父親が育児をし命の重さに向き合い、父親（労働者）の価値観が変化することで、社会の効率や速さを最優先させる開発、近代化や利潤追求だけを追い求める働き方ではなくなるであろう。また、人の生活や子育てにも不可欠な地域への父親参加も促される。このように、仕事と家庭と両面で父親の社会へのかかわり方が変化し、男女が対等でありながら補完しあう男女共同参画社会を構築する。

なお、育児参加は、子どもと過ごす時間の長さ、

子どもの父親への愛着の程度を表す父子関係の質、そして子どもが自尊感情を持てる父性的役割遂行の程度などで評価される。

2. 国の取り組み

男女雇用機会均等法（1985年公布，86年施行），育児・介護休業法（1991年，改正は2004年），男女共同参画社会基本法（1999年公布）など，法的には男女の平等の方向に進み，共に労働も育児も行えるように整備されてきている。しかし，その行使は伴わず，男性の育児参加に関しても，遅々とした歩みの現状である。

合計特殊出生率1.57ショック以来，1994年以降厚生労働省の少子化対策の一連の流れがある。仕事と子育ての両立支援（エンゼルプラン，新エンゼルプラン）から，在宅で子育てをする家族支援，そして男性を含めた働き方の見直しや，地域における子育て支援（少子化対策プラスワン：2002年）へと焦点が移っている。2003年には，家庭を社会全体で支援する（次世代育成支援対策推進法）方針が出された。そして，子ども・子育て応援プラン（2004年）では，仕事と家庭の両立支援と働き方の見直しが重点課題となり，育休取得率男性10%，女性80%の努力目標を掲げている。育児期の父親の育児の時間を先進国並みにすることを目標に，男性が家庭で子どもと向き合うとの内容が明記された。2005年には，地方公共団体，企業などにおける行動計画の策定が義務付けられた。これは10年間の時限立法で，従業員301人以上の企業に仕事と子育ての両立推進の行動計画作成を義務付け，育休取得率を上げようと試みている。仕事と育児などの両立可能な多様で柔軟な働き方の出来る企業を，ファミ

リーフレンドリー企業として表彰し企業イメージを高める。また，男性労働者育児参加促進給付金の創設（2005年）によって，男性の育児参加を可能とする職場づくりに向け，モデル的な取り組みをする事業主に給付金を助成，男性の育児参加へ多様なアプローチをしている。

3. 男性の育児の実情

男性の育児時間

男女の一日の平均育児時間を表1に示す。全国家庭動向調査（2003年実施）によれば，1歳未満の子どものいる家庭では育児のほとんどを妻に任せている夫が8割を超え，全く参加しない父親が約1割いる。

男性の育児休業取得

表2はスウェーデンと日本の民間企業の育児休業取得率である。日本では，男性の育休取得はまだ容易ではない。妻の理解は得られても，職場の抵抗を押し切る勇気，理解ある上司に恵まれることや祖父母など社会の理解，そして復帰後の仕事の心配など，多くの困難が現存する。また，スウェーデンと違い，経済的な保障が得られない日本では，経済的な心配も加わる。現状では，年次有給休暇取得の場合は給料が支給されるが，育休制度利用の場合は無給あるいは賃金カットになるので，経済上育休が取得しにくい。ノルウェーでは，「パパ・クォータ制」で子どもが1歳になるまでに4週間の育休が割り当てられ，育休取得の誘導を図っている。日本では父親の育休をすすめる自治体が出てきており，緩やかではあるが，社会は男性の育児参加推進の方向へ動いている。

表1 夫と妻の家事・育児時間
（6歳未満の子どもがいる世帯：時間）

		家事	育児
平日	夫（有業）	0:04	0:16
	妻（無業）	4:30	3:56
	妻（有業）	3:04	1:52
日曜日	夫（有業）	0:15	0:50
	妻（無業）	3:23	2:38
	妻（有業）	3:09	1:46

資料：総務省統計局「社会生活基本調査」2001（平成13）年

表2 民間企業育児休業取得率
（スウェーデンと日本：％）

	スウェーデン	日本
女性	84.00	70.60
男性	79.20	0.56

資料：内閣府経済社会総合研究所編
「スウェーデン企業におけるワークライフバランス調査」
2005年
厚生労働省「女性雇用管理基本調査」2004年度
（注：日本では妊娠後の退職が多いことを加味する必要有り）

表3 父親の育児内容（普段からよくやっていること：多肢選択）

（％）

	カナダ	日 本	日本の幼稚園	日本の保育園
風呂に入れる	80.7	75.2	74.8	75.9
妻の外出時の世話	35.1	73.9	69.6	80.5
寝かしつける	82.5	32.0	26.7	40.2
泣いたりぐずるのをあやす	70.2	36.0	25.9	51.7
おむつ替え（おしっこ）	77.2	48.6	39.2	63.2
衣服の着脱をしてやる	73.7	43.2	33.3	58.6

資料：カナダの子育て家庭支援研究会 2001年

表4 両親の帰宅時間

（％）

	午後6時前	午後8時前	午後10時前	午前0時前	午前0時以降	一定でない
父親	15.1	35.8	24.6	7.8	2.8	13.8
母親	67.4	20.0	2.8	0.7	0.7	8.4

資料：厚生労働省「児童環境調査」2001(平成13)年

注：全国の満3歳から中学3年生までの児童のいる世帯を対象とした調査

父親の育児内容

日常的に父親が行っている育児内容（表3）では、日本の父親は「入浴」、「妻外出時の世話」に偏っている。他方、カナダの父親は育児全般を引き受けている様子がわかる。また、日本では保育園の父親の方が育児に協力的である。まだ、日本の父親は育児の“協力”の域を出ていない現状がある。

家庭にいない父親

父親の帰宅時間（表4）をみると、夕食を家族で共に出来るのは15.1％と2割に満たない。企業戦士の父親と、平日は父親不在の母子家庭状態が浮かび上がる。休日は体を休めるのに使い、寝顔しか見ない父親が子どもとの関係を持つのは容易ではない。

育休を取得した父親たち

育休を取得あるいは専業主夫を選び、育児を担当した、いわばバイオニア的父親たちの意見は共通である。社会で言われている母親たちの孤立感、いらなど育児の大変さがよくわかる。と同時に、これほど面白い仕事を母親だけに任せておくのはもったいない、男性も育児をするべきだ、との2点である。子どもが自分を「お父さん」と呼ぶことの重みを体験的に感じての意見である。子どもとの時間は父親の心の持ち方に変化をもたらし、家族や働き方への価値観が変わるのである。

4. 日本の父親支援の実態

父親支援はまだ始まったばかりである。父親のニーズすらまだ把握していないので、現場では試行錯誤をしつつの実践である。以前は、“育児は母親”との暗黙の了解があり、社会全体が父親を育児から除外していた。例えば、妊娠中の親になる準備教育は、“母親学級”しかなかった。父親の立会い出産は一部しか認められていなかった。

最近では、父子手帳を配布する自治体（栃木県：2005年4月～）、妊娠中の母親学級に加え、父親になる男性の学びの機会を土、日に設ける自治体が出てきた。東村山市で実施する両親学級（ハローベビークラス）にボランティアの先輩パパが参加し、育児への戸惑いや嬉しさなどの体験を、これから父親になる男性に話す機会を設けている（写真1）。先輩パパの姿は育児をする父親モデルとなる。将来は、両親学級に参加したプレパパに、先輩パパとして参加を促す計画である。市民が等身大のボランティアをし、子育てに優しい地域を作ること目標にしている。また、北区育ち愛ほっと館では、“ばば”（パパ参上）の日を設け（写真2）、父親同士の育児仲間づくりの場となっている。父親や地域の人の特技を提供しながら、親も子ども同世代、異世代との交流が可能となる。以上のように、単に自分の子

写真1 2～3ヶ月後に親になる夫婦が、地域の先輩の経験談を聞く。この後、プレパパは赤ちゃんを抱っこさせてもらう。



写真2 子ども家庭支援センターの父親向けボード



写真3 プレパパの妊婦体験：「お腹が大きいと靴や靴下をはく時が大変なんだね」



育てだけに留まらず、地域をつくることをめざし、長期的な視点に立ち「地域」を視野に入れた父親支援、子育て支援が望まれることは言うまでもない。人間は社会の中に生まれ社会で生きるものであるから、その生活圏である地域を耕してこそ、子どもも大人も健康な生活が可能となる。

5．今後の課題

男性の育児参加を進める最大の課題は、労働体系の改善を国や企業レベルで取り組み、父親が子どもと過ごす時間を確保することである。それと同時に個人の努力も不可欠である。往々にして母親は自分と同じ方法を父親に求め、父親を育児の土俵外に追い出す。こうして母子密着状態となり、子どもの自立が困難となる。子どもは、母親と父親の異なる多様なかわりや価値に触れ健康に育つのである。男性が育児をする父親となっていくときには、父親のみならず母親自身のあり方も問われる。また、父親に子どもの発達や育児についての学習の機会を提供することも社会の役割である。

6．家庭科で取り上げるときのヒント

- ・自分の父親、あるいは身近な男性のとっている父親役割についての意見交換をする。
- ・祖父母世代の父親役割について、祖父母や高齢者にインタビューする。親世代との違いを検討する。
- ・将来、自分が思い描く父親役割（こんな父親、パートナーであってほしい）を話し合う。
- ・外国の父親のしている育児と日本の父親との比較をする。

参考になる図書

- カナダ政府，子ども家庭リソースセンター編 向田久美子訳「Nobody's Perfect」(ノーバディズ・パーフェクト：誰も完璧ではない)シリーズ「親」ドメス出版2002年(この他に「行動」「安全」「こころ」「からだ」があり，絵入りでわかりやすい育児書。中高生が子育てを学ぶテキストとしても活用できる)
- ブリティッシュ・コロンビア州，伊志嶺美津子編，向田久美子訳「Nobody's Perfect」(ノーバディズ・パーフェクト：父親)ドメス出版2002年
- J.ホフマン著，子ども家庭リソースセンター訳「育児するお父さん」2005年(父親の役割，パートナーシップなど具体的にふれている冊子)
- 福川須美ほか「非営利・協同組合ネットワークの子育て支援のあり方に関する国際比較」平成15～16年度科学研究補助金基盤研究(C)2005年6月(日加の父親支援について詳しい)
- カナダの子育て家庭支援研究会「人権尊重と相互扶助の市民意識に根ざしたカナダの子育て家庭支援システムの研究」2001年
- 独立行政法人国立女性教育会館「男女共同参画統計データブック - 日本の女性と男性 - 2003」ぎょうせい2003年
- 杉本千佳編「21世紀の子育てのあり方」(現代のエスプリNo408)至文堂2001年
- 汐見稔幸
「父子手帖—お父さんになるあなたへ」大月書店1994年
「父子手帖 Part 乳幼児」大月書店1999年
「おーい父親」パート 子育て篇，パート 夫婦篇，大月書店2003年
- 脇田能宏他「育休父さん」の成長日誌 - 育児休業を取った6人の男たち，朝日新聞社2000年
- 山田正人「ただいま育児中」日本経済新聞社2006年
- 鈴木まもる「みんなあかちゃんだった」小峰書店2000年(父親の視点で赤ちゃんの生活場面を温かい目で描き，乳児期の子どもをイメージし自分が通ってきた赤ちゃん時代を振り返れる絵本)
- S.Krensky「My Dad can do Anything」A Random House2004年(父親の役割をプラス思考で描く英語の絵本)
- S.マルタ著，子ども家庭リソースセンター訳「シングルシンフォニー」小学館スクウェア 2000年(離婚などの喪失体験をした子どもの心理や親の果たす役割などが具体的にわかる)
- 野沢慎司他編「Q&A ステップファミリーの基礎知識」明石書店2006年
- その他：厚生労働省，国立社会保障・人口問題研究所，総務省統計局などのHP

...書店で入手不可の時の申し込み先

FAX：050(7537)4352

NPO子ども家庭リソースセンター

じっきょうの家庭科副教材

資料集 + 成分表

(家庭科資料集と成分表を1冊にまとめました)

ニューライブラリー家庭科

資料 + 成分表 改訂版

B5 / 288p. 定価780円(本体743円)

ニュービジュアル家庭科

資料 + 成分表 改訂版

B5 / 288p. 定価780円(本体743円)

2点共通 教師用指導書完備

ノート教材

ライフスタディ家庭総合

B5 / 128p. 定価600円(本体571円)

教師用指導書(別売)完備

ライフスタディ家庭基礎

B5 / 104p. 定価450円(本体429円)

教師用指導書(別売)完備

家庭科サブノート

B5 / 80p. 定価530円(本体505円)

資料集

資料 アクティブ家庭科

B5 / 192p. 定価730円(本体695円)

資料家庭科

B5 / 144p. 定価700円(本体667円)

テーマ30 Let's study 家庭科

B5 / 96p. 定価500円(本体476円)

成分表

19年度用新刊

オールガイド五訂増補食品成分表

B5 / 352p. 予価780円(本体743円)

「五訂増補食品成分表」の全食品を掲載した成分表
教師用CD-ROM完備(予定)

2006年11月発行予定

新選食品成分表

B5 / 232p. 定価650円(本体619円)

カラーグラフ五訂増補食品成分表

AB / 208p. 定価690円(本体657円)

調理実習補助教材

基本マスター フード&クッキング

~ レシピ + 成分表 ~

B5 / 96p. 定価500円(本体476円)

イラスト調理 BOOK

~ 基本・応用・理論 ~

B5 / 160p. 定価770円(本体733円)

図説調理 ~ 基本料理 66 ~

B5 / 180p. 定価693円(本体660円)

(価格は2006年10月1日現在)

定 価 210円(本体200円)

2006年10月1日印刷

2006年10月5日発行

○ 編修・発行  実教出版株式会社 代表者 島根正幸

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5

TEL. 03-3238-7777 <http://www.jikkyo.co.jp/>